



Big Brothers  
&  
Sisters Movement

— 日 一 本 — B — B — S — 連 — 盟 — 機 — 関 — 誌 —

# ともだち

Vol.216  
2018  
(H30年)  
10月

発行：特定非営利活動法人日本BBS連盟事務局

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-10-9 更生保護会館内 TEL 03(3356)7383 FAX03(3356)7610



コンセプト・スタディ(沼田町プロジェクト)ー トマト農場での作業風景ー



法務大臣感謝状贈呈式受彰者代表者謝辞



中央研修会

\* \* \* も < じ \* \* \*

・コンセプト・スタディ(沼田町)	2-3
・沼田町プロジェクト参加者の声	4
・法務大臣感謝状贈呈式	5
・中央研修報告	6
・皆さんこんにちは	7
・アメリカ視察報告	8-9
・子ども食堂 from とうきょう	10
・少年院での学習支援	11
・お知らせのページ・編集後記	12



平成30年度 BBS・沼田町・沼田町就業支援センター 3者連携プロジェクト  
(北海道地方BBS連盟 コンセプト・スタディ「ほたるの里へGO」)

沼田町就業支援センター(以下、「沼田センター」といいます。)は、北海道雨竜郡沼田町にある旭川保護観察所沼田駐在官事務所に併設された宿泊施設であり、沼田町が設置する実習農場での農場実習等を通じて、非行少年の改善更生を図ることを目的として、平成19年に設置されました。

昨年12月、再犯防止推進計画が策定され、国、地方公共団体、民間協力者が一体となって再犯防止施策を推進することとされました。沼田町においては、非行少年の立ち直り支援を10年間という長きにわたり町を挙げて取り組んでおり、沼田センターはまさに国と地方公共団体が連携した再犯防止施策であるともいえます。

そこで、こうした取組にさらに民間協力者としてBBS会が加わることにより、国、地方、民間が連携した再犯防止を一層推進するとともに、BBS会の活性化や次代を担う更生保護の裾野の拡大につなげることなどを狙いとして、北海道沼田町、法務省保護局、日本BBS連盟において本プロジェクトが企画されました。プロジェクトの内容は、BBS会員や大学生等が、沼田センターに入所する少年たちと農業実習等を通して交流を図り、改善更生を促すというもので、北海道BBS連盟のコンセプト・スタディとしても実施されました。

本年度は、平成30年9月3日(月)から同月6日(木)までの3泊4日の日程で、東北地方のBBS会員、大学生各1名、関東地方のBBS会員1名、大学生2名が参加し、北海道のBBS会員3名がサポートしました。日本BBS連盟は交通費の半額と宿泊代等を負担しましたが、北海道、東北及び関東地方BBS連盟も本プロジェクト実施に関し、様々な協力を示しました。カリキュラムと結果は以下のとおりです。

9月3日(月)午後、プロジェクト参加者全員が揃って沼田町センターを見学し、宿泊先に移動して青木統括保護観察官から本プロジェクトの内容等について説明を受けました。

9月4日(火)午前から早速農場実習を行いました。参加者はセンターに入所する少年とグループになって、トマトの収穫をしました。午後は、しいたけハウスでの作業を約2時間程度行いました。その後、沼田町役場に移動し沼田町職員から沼田町の概要について講義を受けました。講義では、沼田町の歴史や豪雪地帯だからこそできる雪冷房などについて説明がありました。夕方からは、北海道深川地区BBS会の協力で、沼田町センターに入所する少年とバーベキュー、花火、宿泊先のほたる館に移動して「だるまさんが転んだ」や「ソフトバー」などのグループワークを実施しました。

9月5日(水)午前中は、花卉栽培の農業実習の予定でしたが、台風21号の影響により中止せざるを得なかつたなか、そのことを耳にした金平沼田町長のお取りはからいにより、急遽、本プロジェクト参加者と町長との座談会を実施しました。座談会では、参加者からの質問に答える形で、沼田町センターと沼田町の関わりの経緯などについてお話をありました。午後は農業実習を行うことができたので、しいたけハウスでの菌床移動作業に取り組んだり、カボチャ畑で大きなカボチャを収穫したりしました。実習後、沼田町役場に移動して、保護司、沼田すずらんの会(地元有志女性による支援団体)、沼田明日萌の会(商工会青年部、体育指導員、JAなど有志の団体)の皆さんと座談会を行い、お互いの日頃の活動などについて積極的に情報交換をしました。その後、沼田町センターに戻り、沼田町センター入所少年と一緒に夕食を摂った後、ボードゲームなどのグループワークを実施しました。

9月6日(木)午前中は、ほたる館で検討会を実施し、深川駅へ移動して午前10時に解散する予定でしたが、同日午前3時過ぎに発生した北海道胆振東部地震の影響で、検討会を中止しレポートの提出に切り替えました。

1日目(9月3日)		2日目(9月4日)		3日目(9月5日)		4日目(9月6日)	
時刻	参加者	時刻	参加者	時刻	参加者	時刻	参加者
6:00		6:00		6:00		6:00	
7:00		7:00	朝食・各自 〔ほたる館〕	7:00	朝食・各自 〔ほたる館〕	7:00	朝食・各自 〔ほたる館〕
8:00		8:00	移動	8:00	移動	8:30	検討会 ～地震発生のため中止 毎日悪天候モードで提出
8:30		8:30		9:00		9:00	
9:00		9:00		9:30		9:30	
9:30		9:30	農場実習 〔トマト農場〕	10:00		10:00	
10:00		10:00	農場実習 〔トマト農場〕	10:30		10:30	
10:30		10:30		11:00		11:00	
11:00		11:00		11:30		11:30	
11:30		11:30	移動	12:00	昼食 〔町内レストラン〕	12:00	昼食 〔町内レストラン〕
12:00		12:00	昼食 〔町内レストラン〕	12:30	移動	12:30	移動
12:30		12:30		13:00		13:00	
13:00		13:00		13:30	農場実習 〔しいたけ農場〕	13:30	農場実習 〔トマト農場〕
13:30		13:30	農場実習 〔しいたけ農場〕	14:00		14:00	
14:00		14:00		14:30	移動・昼食会	14:30	移動・昼食会
14:30	14:30 深川駅集合× 移動(ほたる館バス)	14:30	移動・昼食会	15:00	沼田センター見学	15:00	沼田センター見学
15:00				15:30	消防署について(センター設 置の紹介、森産加工場の見 学等) 〔センター等〕	15:30	消防署について(センター設 置の紹介、森産加工場の見 学等) 〔沼田町役場〕
15:30				16:00		16:00	
16:00				16:30	(休憩)	16:30	移動
16:30	開始前演劇 〔ほたる館〕			17:00	グループワーク会合会 〔センター〕	17:00	グループワーク会合会 〔センター〕
17:00	(休憩)			17:30	夕食(日曜) 〔センター一起卓席〕	17:30	夕食(日曜) 〔センター〕
17:30	開講式〔ほたる館〕			18:00	夕食(日曜) 〔センター一起卓席〕	18:00	夕食〔センター〕
18:00				18:30	移動	18:30	グループワーク 〔センター〕
18:30	交流会 〔ほたる館〕			19:00	グループワーク 〔ほたる館体育館〕	19:00	グループワーク 〔ほたる館〕
19:00	おむりワーキング 〔ほたる館〕			20:00	グループワーク 〔ほたる館体育館〕	20:00	
20:00				20:30	移動	20:30	移動
20:30	宿泊 〔ほたる館〕			21:00	宿泊 〔ほたる館〕	21:00	宿泊 〔ほたる館〕
21:00				21:30	宿泊 〔ほたる館〕	21:30	宿泊 〔ほたる館〕
21:30				22:00		22:00	



9月4日(火)午前 トマト農場



9月4日(火)午後 しいたけ農場  
(菌床運搬)



9月4日(火)午後 しいたけ農場  
(袋やぶり)



9月4日(火)夕方～夜  
グループワーク① (バーベキュー)



9月4日(火)夕方～夜  
グループワーク② (花火)



9月4日(火)夕方～夜  
グループワーク③(だるまさんが転んだ)



9月5日(水)午前 町長との座談会



9月5日(水)午後 かぼちゃ農場



9月5日(水)午後 かぼちゃ農場



9月5日(水)午後  
関係団体との座談会



9月5日(水)夜 グループワーク  
(※チームに分かれ、与えられた条件  
から地図を作るゲーム)



9月5日(水)グループワーク  
(※沼田町就業支援センターにあるボー  
ドゲーム等を楽しむ様子)

—沼田町三者連携プロジェクトに参加した3人の皆さんの報告です。—

### 「沼田プロジェクトを終えて」

札幌・SGU 江別 BBS 会 高野紗也香

北海道グループは、コンセプト・スタディで、2・3日目のグループワーク企画を担当しました。「会ったことのない少年や各地域から集まる参加者みんなが楽しめるもので、思い出に残るものは何か」を考えて内容を決めました。その結果、2日目には「花火・運動(しつぽ取りゲーム・だるまさんが転んだ)」、3日目には、「バスは待ってくれない・ジンガ」を行いました。

「バスは待ってくれない」は、カードに書かれている情報をグループ内で口頭のみで共有し、1つの地図を作るゲームです。これが成功するか1番心配でした。しかし、最後まで飽きることなく協力して楽しんでくれたので大成功でした。

全体を通して、「だるまさんが転んだ」がとても不評だったこと、時間配分の考えが甘かったことが反省点となっています。また、少年との会話の中で、グループワークに少年の好きなことや得意なことを取り入れるのも良いのではないかと思いました。来年担当する際には今回の経験を生かして、思い出に残るより良いものにしたいと思います。

### 「沼田町での活動を終えて」

宮城・青葉区 BBS 会 塩田沙緒里

私は、北海道で行われている更生保護の活動を知りたいと思い、今回のプロジェクトに参加しました。出会った少年たちは礼儀正しく、言葉遣いもしっかりとしていました。農場実習に真剣に取り組んでいる様子であったり、実習の指導をしてくれている農家の方々とも気兼ねなく会話をしたりしている姿を見ることができました。農家の方々も少年たちに対して実習への指導だけではなく、世間話であったり、将来についての話をしたりするという話を聴き、少年たちにとっては自分たちの話を聞いてもらったり、話すことができたりする存在なのではないかと感じました。少年たちをよそ者とするのではなく、沼田に来たからには、沼田の子として接するのだという町民1人1人の意識の高さに驚くとともに、誰かがやらなければいけないなら、自分たちがやろうという思いの元に立ち上がった有志団体の方々の少年たちを理解しようとして行動を起こしたことにも驚きました。就業支援センターがあることが少年たちにとってどういうことなののかを知ることができ、参加してよかったです。

### 「立ち直りを支えるボランティアには何ができるのか」

東京・早稲田大学広域 BBS 会 尾亦恭輔

私が沼田町プロジェクトに参加したのは、普段BBS会員としての活動をする中で抱いていた「私たちボランティアは何をすれば少年たちを支えたことになるのか、何の力になれるのか」という疑問に向き合いたいと考えたからです。

この疑問について新たな気づきを得られたのは沼田町就業支援センターで会った少年たちとの会話中でした。彼らとともに農作業やレクリエーションを行っている際、ある少年に「当たり前のように一緒にいろいろやっているけど、俺たちのことをどんなふうに思っているの」と聞かれたのです。この言葉は、彼らにとって作業をしたり遊んだりして同じ時間・空間を人と共有することが必ずしも当たり前のことではない、という気づきを私に与えてくれました。こうした気づきも含めて、沼田町のボランティアの方々と、ボランティアに何ができるのかについて議論することを通して、「立ち直りを支えるボランティアにできるのは、彼らに何か影響を与えるというよりもむしろ、気負わずに少年たちと日常的な喜びや苦労を共有することなのだ」ということを再認識できました。



# \*平成30年度法務大臣感謝状贈呈式（第70回全国BBS大会）報告\*

本年9月25日(火)、法務省20階の会議室において、BBS会員に対する法務大臣感謝状贈呈式が開催されました。

本年度は14名の個人及び2つの地区会が受彰し、贈呈式には10名が出席しました。

贈呈式に先立ち、特定非営利活動法人日本BBS連盟主催による昼食会が法曹会館にて行われました。法務省保護局長、更生保護振興課長も出席し、受彰者の皆様にこれまでの活動や今後の抱負などをお話をいただきました。

贈呈式では、上川陽子法務大臣が、出席者一人一人に感謝状を贈呈した後、挨拶の中で、日頃の活動への感謝と今後の活動に対する期待を述べられました。

続いて、受彰者を代表し、埼玉大学BBS会の尾花美紀さんが謝辞を述べられました。

最後に、出席者全員で記念撮影を行い、終始和やかな雰囲気で贈呈式は終了しました。

## 受彰者のみなさん

県連盟	氏名	出欠	県連盟	氏名	出欠
旭川	追出町 勝治	○	大阪	細川 光利	
釧路	橋本 稔		島根	春日 智徳	
埼玉	埼玉大学BBS会	○	徳島	藤幸恒雄	○
東京	江戸川区BBS会	○	香川	上原 美智代	○
神奈川	上野宗昭	○	愛媛	山内圭二	
長野	八幡正剛	○	福岡	吉富正広	○
静岡	佐藤栄芳	○	熊本	稻葉紘	
三重	櫻井 博	○	大分	黒永 隆	

(敬称略 ○は当日出席者)



～上川法務大臣を囲んで記念写真～

## 平成三十年度BBS会員に対する 法務大臣感謝状贈呈式 受彰者謝辞

本日、表彰を受けましたBBS会員を代表、一言お礼を申し上げます。BBS運動は、戦後間もない昭和二十二年の発足以来、過ちを犯した少年たちや社会に適応することが難しい子どもたちの良き兄、姉として、一緒に悩み、一緒に学び、一緒に樂むことにより、少年の立ち直りや自己を支援してまいりました。

また、このような活動を通して、私たち自身も共に成長してまいりました。私は、BBS活動を通して子どもたちと関わるなかで、複雑な背景をもつ子どもたちが数多くいることや、子どもも大人も、様々な人のふれあいなどによって、変化し、成長していくことを学ぶことができました。

近年、少年非行の件数は減少していますが、いじめや不登校など学校生活で生じる問題にとどまらず、虐待や貧困など、子どもたちを取り巻く環境は複雑・多様化しています。

このようす社会状況について、昨年策定された「再犯防止推進計画」においては、私たちBBS会員の活動が具体的施策として盛り込まれるなど、私たちBBS会員の果たす役割はますます重要な立場になっているものと感じています。

昨年、BBS運動は発足七十年を迎えました。

これからも私達は、更生保護に携わる保護司、更生保護女性会の皆様や地域の皆々との連携を深めながら、七十周年記念行事のキーワンセレブトである「過去から未来へづけるつなげるつぎの手に」の趣旨へ沿って、2020年の京都コングレスにおけるユースフォーラムも見据え、常に社会に求められるBBS運動を展開していく所存です。

今後ともBBSの活動に対して、更多的なご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、謝辞とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

平成三十年九月二十五日

埼玉県BBS連盟 尾花美紀



# 第59回 BBS会員中央研修会

(主催：法務省保護局、日本BBS連盟)

本年9月29日(土)から30日(日)、台風24号が接近する中、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて標記研修会を開催しました。

本研修会は、地区BBS会において主として組織の中心となってその活動を積極的に推進している地区会長等のBBS会員を対象とし、研修に参加したBBS会員が、組織の一層の発展と活動の活性化を図る役割を担うことができるよう、必要な知識及び技能を修得することを目的として実施されました。

そして、昨年のBBS運動発足70周年記念行事のキーコンセプトである「過去から未来へ つづける・つなげる・つぎの手に」の趣旨を踏まえ、様々なチャレンジングな活動を通じて時代の要望に応えるBBS運動の姿を模索する「コンセプト・スタディ」の実施内容を検討する上でのヒントとなる内容になっています。

1日目は、当連盟戸田信久会長及び畠本直美保護局長の挨拶に続き、保護局更生保護振興課から「BBSに関する最近のトピック」として、再犯防止推進計画、BBSの新たな取組としての外国人BBS会員活動促進プロジェクト、BBSコンセプト・スタディ及び沼田町プロジェクトの講義がありました。また、9月6日に実施したアメリカ出張の報告と2020年4月に京都で開催されるユースフォーラムの説明もありました。続いて、当連盟原田副会長が「BBS運動の変遷」と題して、ご自身の経験と期待を述べられました。



その後、放送大学の宮本みち子名誉教授から、「今、子ども・若者の現状と課題をどう見るか」と題し、子どもの貧困の背景や原因等について地方自治体が行った調査結果等も交えながら御講演いただきました。

講義及び講演の後、グループに分かれて、「①非行少年等の再非行を防止するために、BBSが取り組めること」、「②現代の子どもたちが抱える問題の解決に、BBSが取り組めること」、「③国際化社会におけるBBSの今後の活動内容について」をテーマに協議を行いました。

2日目は、グループ協議の意見を模造細にまとめて、全体会で発表し、保護局及び日本BBS連盟役員から講評を行いました。

本研修会で得た知識や経験を研修員が地区会で共有し、コンセプト・スタディの実施を含めて、BBS運動が更に発展することを期待します。



9月29日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター102号室

時間	スケジュール
12:30~	受付開始
13:00~13:15	開講式
13:15~13:30	オリエンテーション
13:30~13:45	研修1 講義「BBSに関する最近のトピック」 法務省保護局更生保護振興課
13:45~14:00	研修1 講義「BBS運動の変遷」 特定非営利活動法人日本BBS連盟 原田喜信 副会長
14:00~15:30	研修2 講演「今、子ども・若者の現状と課題をどう見るか」 放送大学 宮本みち子 名誉教授
15:30~15:45	休憩
15:45~17:15	研修3 グループ協議① 「非行少年等の再非行を防止するために、BBSが取り組めること」 「現代の子どもたちが抱える問題の解決に、BBSが取り組めること」 「国際化社会におけるBBSの今後の活動内容について」
17:15~17:30	宿泊に関するオリエンテーション 日本BBS連盟事務局
18:00~20:00	意見交換会

9月30日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター102号室

時間	スケジュール
9:00~10:30	研修3 グループ協議② 「非行少年等の再非行を防止するために、BBSが取り組めること」 「現代の子どもたちが抱える問題の解決に、BBSが取り組めること」 「国際化社会におけるBBSの今後の活動内容について」
10:30~12:00	研修4 全体討議 「グループ協議結果発表・意見交換」
12:00~12:30	閉講式



上左：畠本保護局長  
上中：戸田日B会長  
上右：宮本講師  
中左：修了証授与  
下：全員で記念写真





## 皆さんこんにちは(再発足)

板橋区BBS会（東京）

【発足月：平成30年8月（会員4名）】

板橋区 BBS 会は長い間休会状態にあり、当時を知る人も少ない状態でした。保護司会に対し「BBS 会とはどのような団体か」という説明から始め、何度も話し合いの場を持ち、4 年の月日をかけてやっと再発足となりました。社会人 4 名での出発となります。自分たちのできることを無理なく活動することで、長く存続していけたらと思っています。

再発足となったものの活動先の無い状態でしたので、地域の施設・団体に自分たちを売り込みに出かけたところ、NPO 法人が運営しているこども食堂でお手伝いをさせていただけすることになりました。さらに、そこの代表から子育て支援に関わっている団体が集まる会議にお誘いをいただきました。このように、周りの人に助けられながら、少しずつ存在を知っていただき、地域に根差した活動をしていきたいと思っています。

再発足となるまでの準備期間には、東京都 BBS 連盟、東京保護観察所をはじめ、他地区会とくにお隣の豊島区 BBS 会のみなさんにはたくさんのご支援・ご協力をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。



### 北海道胆振東部地震被災地への支援について（札幌連盟・小樽BBS会）

9月9日午前3時3分に北海道胆振地方中東部を震源とする地震が発生しました。小樽BBS会（斎藤 竜介会長）は、震源地に隣接するむかわ町に救援物資を届け、炊き出し（カレーライス 200 食相当）を行いました。現地では、一般社団法人むかわ町観光協会に救援物資の配布と炊き出し場所の提供と準備にご支援を頂きました。

9月9日、斎藤竜介会長は自身のフェイスブックで、以下のように呼び掛けました。  
「現地の会員の生の声で、割り箸や買い物袋、カップラーメンなど直ぐに食べられるもの、歯ブラシ、ティッシュ、オーラル用品などがほぼ足りてない状態です。いま、こっち側も大変な状態ですが、もっと大変らしいです。被災地のむかわ、安平方面に支援物資を届けます！！あす昼出発したいと思っております。m(\_ \_)m！！」

その結果、小樽BBS会会員、友人や取引先のお客様のおかけで、被災地までの輸送・炊き出しが、無事に成功しました。

北海道も冬を迎えます。まだまだ余震が続いております。被災地もこれからが大変だと思いますが、今後とも出来る限り支援を続けていきたいと思います。



### 【はじめに】

2020年4月に京都国際会議場で1970年以来50年ぶりに日本で国連犯罪防止刑事司法会議(コングレス)が開催されます。コングレスは、国連が主催する刑事司法分野における世界最大規模の国際会議で、1955年以来5年ごとに開催されています。コングレスにあわせて、若者が参加するユースフォーラムが開催され、犯罪防止や刑事司法に関する様々な議論が交わされます。そのユースフォーラムにおいて、日本のBBS運動を世界に発信しようということで、9月5日から13日まで、私は、法務省保護局の2名の方に同行して、ニューヨーク州及びペンシルバニア州で、①少年司法制度 ②保護観察処遇の実態 ③民間ボランティア団体(BBBS of NYC)の活動 ④日本にない処遇制度の実態について調査してきました。今回は、③BBBS of NYCについて、報告します。

### 【Big Brothers Big Sisters of New York City(BBBS of NYC)の歴史】

1904年にNY市児童裁判所書記官のアーネスト・コルター(クールターとも)が多くの非行少年を目にし、思いやりのある成人こそ困難を救うことができる、援助できると始めたのがbig brother運動で、同時期に設立されたNY市児童裁判所にくる少女向けに支援するLadies of Charityという支援団体と1977年に合併し、BBBSとして活動しています。

日本のBBSとアメリカのBBBSの最大の違いは、メンタリングが主であることです。しかしながら、日本のBBSはもともと、アメリカのbig brother and big sister movementを踏襲しているので、子どもたちに対してのボランティア活動など本質的な部分では参考にすべきところが多いと感じました。

BBBS of NYCのミッションは、「NY市に居住する逆境に置かれた子どもたちに彼らの人生をよりよくする契機となるマンツーマンのメンタリングを提供すること」です。この部分は、「ともだち活動」に近いと感じます。スタッフは、常勤70名、パートタイム35名(ソーシャルワーカー含む)で、事務所は、グランドゼロの近くという非常に立地のいい場所にあります。9・11があってから、賃料が安くなっているとのことでしたが、基本的には寄付金で運営されています。この人数でどのように運営しているのでしょうか。

資金面では、スタッフの8人がファンドレイザーです。ファンドレイザーは、NPOや非営利団体等のための寄付金の資金調達役をします。日本では、5・6年前からこのワードが取り沙汰されてきました(私も、日本の准ファンドレイザーです)。例えば、大学の基金運営のための寄付金、ユニセフの寄付金などを能動的に富裕者層等にお願いにあがるの仕事です。8人のファンドレイザーが、BBBS of NYCに年間10億円の寄付を集めており、寄付者は個人にとどまらず、Bank of AmericaやPWCなど大手企業も含まれます。

運営は、本部が様々なプログラムを作成し提供しています。作成にはソーシャルワーカーが入り、プログラム実施による効果等を根拠に基づいて作成します。メンターとして、実際に現場で活動する学生は、メンターの指導や研修プログラムは受けますが、現場ではプログラム作成には関わりません。運営と活動を切り分けて行っているといった印象でした。

### 【メンター(BIG)について】

21歳以上がメンターの条件です。21歳以上でないと、自分を確立していない状態ではメンタリングできないという考え方によります。毎月、メンターの応募が400~500件あり、ソーシャルワーカーが面談選考をします。無給ボランティアに対する応募が多いことに驚くかもしれません、その要因の3つあります。①BBBSの知名度 ②文化的背景 ③応募者のバックグラウンドです。①については、子どもたちの活動としてアメリカで名前が出てくるとすれば、「ボイスカウト」か「BBBS」というくらい知名度があります。②については、アメリカでは大学進学において、テストの点数だけでなく内申書も重視されます。その中に、ボランティアをしていたかという項目があり、高校生のうちからボランティアに関わる機会が多く、ボランティアに対しての理解、寄付金に対しての理解が若いころから持たれています。③について、21歳からメンターとなれます。その多くは、過去にメンターを受けた子どもです。実際にメンターを受けてよかったですと思った子が応募してきている現状があります。メンターの平均年齢は25~30歳であり、メンターがスタッフになることもあります。そのままメンターに残った最高齢者は93歳のことでした。

### 【メンティー(対象となる子ども little)について】

7歳から18歳で、メンタリングを開始するためには保護者同伴の面接が必要です。メンタリング期間は1年ですが延長も可能で、平均は20か月です。マイノリティーの男子少年が多く、公的機関からの依頼もあり、2016年は、5,222人を受け入れています。移民やLGBTなどの子ども、それぞれに適したプログラムが実施されています。

## 【big と little のマッチングについて】

様々な家庭環境やバックグラウンドの little に適した big をマッチングするため、ソーシャルワーカーが関与し、面接やアセスメントツールを使用した科学的根拠に基づく情報を使用しています。メンティーと同じ境遇のメンターをマッチングするため、例えば、LGBTには同じような境遇のメンター等を配慮しています。居住地にも配慮していますが、特殊な背景があるほどマッチングは難しいと聞きました。ここ数年のアメリカの刑事司法は科学的根拠をもとに議論されています。少年年齢の引き上げについても、脳科学上において適切な年齢水準について議論されています。子どもたちの対応でも、専門家を交えてマッチングされています。



## 【プログラム内容】

- ① Traditional Mentoring  
1か月8時間は対応、99%がマイノリティの少年
- ② Juvenile Justice Mentoring  
再犯防止にケースマネジメントとメンタリング(日本のBBSに近い内容)
- ③ Children of Promise Mentoring  
両親や家族が収監されている子どもに対するメンタリング
- ④ New American Program  
移民の少年に文化・言葉等を助けたりする(日本では、留学生BBSの今後のアイディアとして参考になる)
- ⑤ Building Future Mentoring  
里親システムの子どもへのメンタリング
- ⑥ Education Initiative  
NY市立大学と連携して教育支援を行う(今後のメンターの応募にもつながる)
- ⑦ Workplace Mentoring  
ビジネスの世界の紹介
- ⑧ STARS program  
子どもの興味ある業界の仕事を体験できる(google等も受け入れを実施)
- ⑨ POD program  
1回きりのセミナー(キャリアやスポーツ)
- ⑩ Summer Internship  
生徒たちに実際に企業で勤務してもらう
- ⑪ Center for Training and Professional Development  
専門家によるメンタリング

## 【所感】

今回、渡航させていただき、BBBSだけでなく、少年院・家庭裁判所等も訪問させていただきました。現地では、社会復帰において、教会を中心としたコミュニティーが強い印象をもちました。現在は、少年院など施設に入れるよりも、日本の保護観察のような、コミュニティーに戻してアフターケアに力を入れる例が多く、そのようなNPO団体との連携も公的機関が行っています。

BBBS of NYCの報告をしましたが、日本と違う文化的背景があります。そのまま取り入れるのは難しいかと思いますが、資金調達にしろ、プログラムにしろ、根拠(数値など)をもとに作成・活動をしています。その部分は日本におけるBBSにも取り入れてはいいのではないかと感じました。BBBS of NYCが正解というわけではありません。アメリカの保護観察官と話をした際、BBBSのメンタリングは伝統的モデルであり、今は別のモデルも取り入れているという意見も聞きました。

ペンシルバニアで高校生のお子さんをもつ日本人の親御さんに会う機会がありました。その方は、BBBSを知っていて、その理由として、ペンシルバニアの一部では、BBBSが廃品回収をしていて、いらなくなつた服などを家の前まで取りに来てくれる。そのことから、HPを見て活動を知ったと話していました。廃品回収がBBBSの資金になり、宣伝という意味で日常的に「知る」状況を作り出していると感じました。アメリカで見て感じたことを今後のBBS活動に、現場の子どもたちのために生かしていくたいと感じております。



# 子ども食堂 from とうきょう

社大BBS会 大須賀史紀

私たち社大BBSは学生50名程度で活動しています。主な活動として月に2回行っている子ども食堂と年に1回行っているカレーの会があります。社大BBSは食をテーマに行う活動が多く、食べることで人との関わりを覚えていくことに重きをおいています。

子ども食堂は貧困家庭の子どもたちを対象に29年の1月から行っている活動です。市内の2ヶ所の場所で行つておらず、一つは地域の人達にも手伝っていただき行っています。子どもたちが6~7名、学生が7~10名で行っています。学校で行っている子ども食堂では学生がご飯を作ることなども行っていて、季節のメニューや子供たちのリクエストなどで料理を決めています。

私たちがこの子ども食堂を始めようとしたきっかけは社大BBS会での活動を新たに増やしたいということ、また子どもの貧困からつながる犯罪などを未然に防止することを考えて始めました。子ども食堂では子ども達が固定されているクローズという形で行っているため子どもたちとの関わりが多く、子どもたちの個々の問題や個々の特性について知ることができます。私たちが子ども達に何ができるかを考えることができます。私たちはこのことにクローズの形をとってやっている意味があるのではないかと思っています。今後は子どもたちの勉強を見ることや子どもたちとのお出かけができればと考えています。

私たちが年に1回行っている活動のカレーの会では、保護観察下にある少年を対象として一緒にカレーを作り食べます。29年は10月1日に清瀬のコミュニティプラザひまわりで開催し、少年6人、保護司7人、BBS会員11人、藤澤保護観察官ほか1人、その他3人の計29人の参加がありました。29年度は30年の2月にも同じように開催しました。この活動ではBBSの理念にもある同じ年のお兄さんお姉さんという立場を大切にしています。

また月に1回勉強会を行っています。学ぶ内容は月によってさまざまですが、4月には顧問の山田先生から更生保護について、7月には立川支部の名倉保護観察官を迎えて、何故保護観察官となったのか、実際の保護観察はどのようなことをしているかなどの実体験を聞かせていただきました。

また私たちは受け身の学びではなく、考えを深める学びも行います。29年の10月に行った勉強会では子供食堂は本当に子供の居場所になっているのか、それとも大人達の居場所になっているのだろうか、一過性のものになってしまったのではという危惧の声も出てきました。このように受け身の学びだけでなく、考える学びも行うことで、なぜ犯罪などは起こってしまうのかをみんなで考えることも行っています。

私たち社大BBS会は設立後約10年と歴史も浅く、未熟な存在です。そのなかで顧問の山田先生、富永先生、内田先生、それに清瀬の保護司の國井先生など多くの人にお力を借りて行えていることに感謝しています。



# 少年院での学習支援

from とうきょう

八王子BBS会副会長 棚橋央登

平成29年12月から、私は月に数回、多摩少年院で学習支援のボランティアを行っています。少年院での集団授業に遅れをとっている少年や、自分の苦手な分野についてピンポイントで学びたいと考えている少年に、1対1で勉強を教えるのが私の役割です。



最初に少年院から依頼があったときは、活動に対して少し不安な気持ちになりました。少年院と言われば普段の私たちの生活からはかなり遠い存在のような気がするし、ましてや自分のような一学生ボランティアが更生段階にある少年とたやすく関わること自体良いことなのかがわからなかつたためです。実際、最初に少年院を訪れたときは、院内の独特的な雰囲気や少年らのしっかりと規律された行動の一つ一つがみな新鮮で、ほどよい緊張感の中で勉強を教えたことを覚えています。

この学習支援では、同じ少年に連続で指導することではなく、毎回別の少年に1時間半ほど学習支援を行っています。教える側としては、前回指導した少年がちゃんと継続して勉強できているか、またどこでつまずいたりしていないかと多くのことが気になってしまいますが、そこは気持ちを切り替えて今回担当する少年に対しても何か勉強のきっかけを見つけてもらえばと思い、日々活動しています。



活動を重ねることで変な不安は薄れていく一方、どのように教えれば理解してもらえるかが徐々にわかつて活動が楽しく思えるようになりました。少年が、「今まで全然わからなかったところが説明を聞いてスッキリしました！」とか「すごく難しく考えていたけれどこういう方法で計算すれば答えが出るんですね、知りませんでした！」と知識を習得できたことを心から喜んでいる姿を見ると、とてもやりがいを感じます。自分は学生時代あまり勉強面で困ることはなくむしろ勉強が楽しいと感じることが多かったが、それは周囲の先生の教え方が単にうまかったのだと思います。早い段階で勉強をやめてしまう子は、この“理解する楽しさ”にあまり触れられずにここまで来ている可能性が高い。私は、少年に勉強が決してつまらないものではないことや生きていく上で役立つものも十分にあることをできる限り教えてあげたい。だからこそ私は勉強を教える際、どういう場面でこの知識が役立つか、またどうしてこういう考え方をするのかなど、より根本的なところまで遡るようにしています。このような教え方はぜひ今後も継続していきたいです。

この活動を通して日々感じることが1点あります。それは、少年らの積極的に学ぼうという意思の強さです。一人一人の学力は決して高いものとは言えず、理解のスピードが遅い者もいます。しかし、そのような少年も決して考えることを放棄せず、こちらの説明を根気強く理解しようしてくれます。ときには、もう一度説明を求められたり、それはこういうことですか？と質問されたりすることもあります。少年院に入った当初は勉強をする機会があまりなかった少年たちが積極的に学ぼうとしている姿を目の当たりにすると、どうにか力になってあげたい、少年たち自身も何か変わろうとしているのだなと強く感じます。成人と比べると少年は心身が未発達であり、些細なことが原因で非行に走ってしまうことが多いとされます。それは、裏を返せば、周囲の環境次第で更生の余地も大いに期待できるということです。私は少年が自分の将来のために勉強することが必要だと感じ、そのやる気に満ち溢れているのであれば学習の機会を与えることで多少なりとも彼らを支えられるのではないかと考えます。いつか少年がこの学習支援のことをふと思い出し、ああいった機会があってよかったなと少しでも感じることがあれば私たちの行っている活動にも意義があるのではないかでしょうか。

10月6日(土)、霞ヶ関の法務省赤れんが棟で「よしもと×法務省”再犯防止”PRステージ『RE-ENTRY!!』～立ち直り芸人大集合 SP～」が開催されました。10月1日の「法の日」から1週間は「法の日週間」と制定されており、法務省・最高検察庁では今年も「法の日フェスタ in 赤れんが」と題したイベントが実施されました。そしてその中のプログラムのひとつとして「再犯防止」「立ち直り」をテーマに、よしもと芸人と一緒に笑って学べるステージを行いました。ライブタイトルの『RE-ENTRY!!』は、再犯防止のキャッチコピーにもなっている言葉。かつて非行に走った過去を持つバッドボーイズの佐田をMCに迎え、みんなで一緒に学びながらも、笑いの絶えないステージを繰り広げました。



八王子BBS会の松井会員と難波会員が出席、BBS運動を紹介し、活動について語っています。

## ● ご支援ご協力感謝

今回も次の方々から御支援が寄せられています。  
7月1日から9月30日までに寄附金・賛助会費をお寄せくださいました皆様のお名前を掲載させていただきます。  
BBS運動にお心をお寄せいただき深く感謝申し上げます。  
**【賛助会費】(敬称略)**  
伊東充代、鶴正勝、柴香里、柴潔子、田邊健児、谷口崇義、  
土川博子、富田泰子、中尾巳代子、西迫みなづ、馬場義博、  
持田真生



TEL: 03-3356-7383 FAX: 03-3356-7610  
http://bbs-japan.org



◆この機関紙の発行に共同募  
金の配分を受けています



今夏は日本中が炎暑と台風、地震などの災害に見舞われました。「沼田町プロジェクト」は台風21号と北海道胆振東部地震の影響を受け、中央研修会は台風24号が接近・通過する中で開催されました。残念ながら本号ではBBSの実りある活動の一部しか紹介できません。

独立行政法人国立青少年教育振興機構から第35回全国青少年相談研究集会の開催要項が届きました。「青少年の複合化した課題を地域で支えるには」をテーマに、来年1月17日・18日、オリンピックで開催されます。詳しくは同機構のホームページをご覧ください。(編集員 H)

## 会長の動き

～8月1日から9月30日まで～  
9月1日 東京都BBS運動発足70周年記念大会  
(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)  
9月25日 法務大臣感謝状贈呈式・第70回全国BBS大会  
(法曹会館・法務省20階会議室)  
9月28日～30日 第3回理事会  
第59回BBS会員中央研修会  
(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)

### \*\*BBSグッズ\*\*

BBSグッズ専用口座 (郵)00190-4-324287

地区会等代表者名でFAXで申し込んで下さい。

※有償グッズは振込を申込と兼ねています。

**【有償グッズ】** 送料: 日B負担(振込料は申込者負担)

*BBSバッジ	500円
*クリアファイル(10枚セット)	500円(★)
*トートバッグ	900円(★)
*BBS冠バッジ	100円(70周年)
*クリアファイル(1枚)	100円(70周年)
*消せるボールペン	200円(70周年)

(★)はBBSロゴ入り、(70周年)は記念事業品です。

**【無償グッズ】** 送料: 着払い

- \*リーフレット1セット(50枚)
- \*28・29年度モデル活動報告書
- \*28・29年度中央研修結果報告書
- \*BBS運動基本原則解説書
- \*「聞く」から「聴く」へ(CD版付き)
- \*ともだち活動をする皆さんへ(平成30年2月改訂)

**BBSリーフレット  
無償配布中!!**

